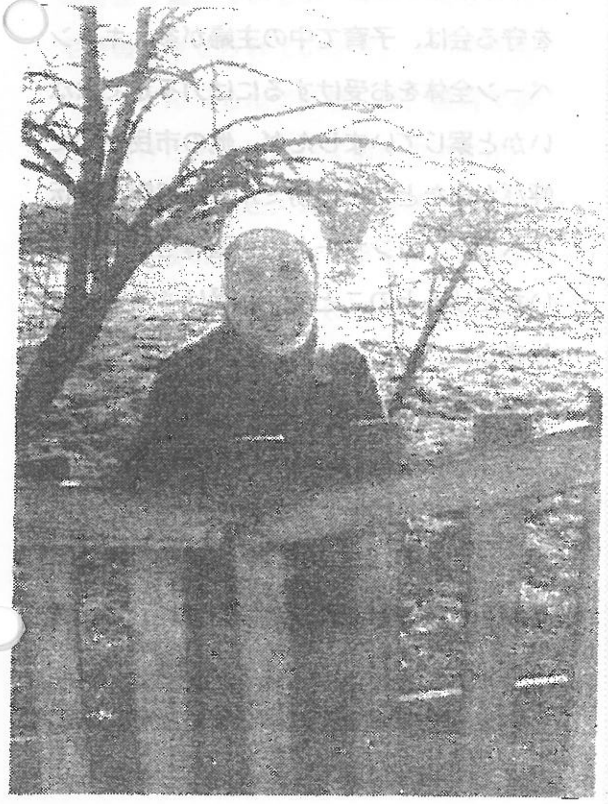
NO. 34　　1996. 7. 31

郵政省・国際ボランティア貯金より、総額 10,352,000円 交付！



今年も国際ボランティア貯金より助成が決まりました。助成金を確実に届けるために、9月に現地調査を予定しています。

また、それぞれの援助活動は、各地の救援団体がプロジェクトを作って取り組みます。ひとりでも多くの方が、ともに支援の輪を広げてくださることを願っています。

《交付金内訳》

☆移住村医療品購入費：　6,042,000円
（4診療所）
☆小児病院医療機器・医薬品：1,902,000円
☆小児病院粉ミルク：　1,000,000円
☆医師研修費用　：　433,000円
☆日本人医師派遣費用：　975,000円

《事務局》〒466　名古屋市昭和区楽園町137－1－10
チェルノブイリ救援・中部　代表：神野英樹
【郵便振替】00880－7－108610
☎FAX:052－836－1073　（月・水・金・10:30～15:30）
（問い合わせは、お名前とシールの番号を明記し、返信用切手を同封の上、なるべく郵便でお願いします。）

96年度の主な活動計画

～運営委員会で決まったこと～

チェルノブイリ原発事故から10年経ったこの春、被災地の状況がマスコミや救援団体によって数多く知らされました。現地の状況はますます深刻になっているようです。

救援・中部では本年度の郵政省のボランティア貯金からの助成も決まり、次のような活動計画を立てました。

1） **移住者の村への援助**

原発事故の被災者は、ジトーミル州内31カ所に移住者の村を作って生活しています。各移住村には、診療所がありますが、器具や医薬品が不足しており、最低限必要とされる医療機器、医薬品を援助します。

2） **ジトーミル州立小児病院への援助**

従来から援助してきましたが、本年度は新生児救急（蘇生）部門を中心に、医療器材、薬品、粉ミルクを援助します。また、医師研修や日本人医師の派遣を実施します。

3） **ナロジチ地区病院へ援助**

ナロジチは、誰もが移住しなければならない地域でしたが、最近、任意の移住地域に指定されました。このためナロジチ地区は、汚染地域での生活環境をどうしていくのか、大きな問題となっています。今後、地区病院へ、医薬品、粉ミルク、給水施設などの援助を予定しています。

ミルクキャンペーン

昨年まで救援・浜松の担当で、ミルクキャンペーンが開催され、現地に粉ミルクを送ってきました。

今年も、運営委員会でミルクキャンペーンを行うことになり、私達、一宮・つぼみを守る会は、子育て中の主婦が多くキャンペーン全体をお受けするには力不足ではないかと案じていましたが、他の市民団体に呼びかけたところ、粉ミルクの保管や宣伝、イベント、コンサートの企画等も協力していただけるとのことで、お受けすることにしました。

チェルノブイリ救援・中部は、ボランティア貯金等、多額の救援活動が展開できるようになったとはいえ、ひとりでも多くの方々に参加を呼びかける市民運動であるという初心に帰り、ミルクキャンペーンを広げて行くことが出来たらと思います。

小さな命が元気に育つように、安心して与えられる安全な粉ミルクを送るために、救援・各地の皆さん、又、ポレーシェの読者の方も是非御協力下さい。

一宮・つぼみを守る会　中島 しぐれ

☎&FAX 0586-46-0263

救援・中部では、今後、現地調査を行い、現状報告などをポレーシェ紙上でお知らせします。
資金カンパも随時呼びかけますので、ご協力お願いします！

竹内さんの手紙

アンドレイ君やユーリ先生の話では、現在キエフのアパートの公共料金（電気代、水道代、ガス代など）は合計40～50$（ひと月あたり）になり、キエフ市民の3分の1くらいは、払えない状況だということです。昨年の7月頃にはこれは5～10$でした。ユーリ先生の給料はよい方で、100$以上もらっているそうですが、数カ月前には遅配がありました。ユーリ先生の奥さんは、公立（市立？）図書館で働いているのですが、現在は自宅待機？させられています。ユーリ先生の息子さん（セルゲイ君）は、無料で手術を受けたと私は聞いていたのですが、よく聞いてみると、公には無料、ということで、腕のよい医師に早く手術してもらうため、つけとどけ(?)が、500$ほど必要だったそうです。もっとも、その習慣は旧ソ連時代からあったそうで、そんな金額をみんなどうやって払うのかと聞くと、知人親類のカンパでしのぐのだそうです（可能な場合は）。

ユーリ先生は息子さんの治療費にあてるため、別荘（旧ソ連時代、チェルノブイリ事故後に買った）を売ることも考えたそうですが、息子さんの保養のため手放すことは控えたとのことで、現在奥さんと息子さん二人はほとんど別荘（キエフから西へ電車で1時間半ほどの村のある）で過ごしているようです。セルゲイ君の化学療法は一応最終クールをすませ、様子をみているところだそうです。

アンドレイ君（ロシア語通訳）はすでに大学を卒業しましたが、「大学は出たけれど」状態で、まだよい職を捜しているようです。当地の新聞報道では、チェルノブイリ原発一号機は、11月30日に運転停止、8～9カ月かけて廃炉のための技術的点検を行い、その後5～6年かけて廃炉にもっていく、とチェルノブイリ原発所長補佐・広報担当ミハイル・バグダーノフ氏が公言したそうです。ほんとかな？（というのは、そのうちまた言うことが変わるんじゃないか、という疑い無きにしもあらず、ということで。）

先日、郵便受けに毎週入っている広告新聞に「日本で働こう。28才までの女性、ウエイトレス及びダンサー（親密交際なし）、渡航費、食費、家賃、当方負担」という小さな広告があり、会社名もなく、電話番号が書かれているだけです。キエフの日本大使館のヴィザ窓口に、明らかに日本のヤクザ関係者が来ているという話を以前聞きましたし、豊橋でさえ20人近くのウクライナ人女性が夜の仕事をしているという話もありましたので、ははあこれか、という感じでした。現在、米ドルレートはわずかずつ下がって、1ドル＝175,000クーポン程度です。

（キエフより・竹内高明）

カンパしてくださった方々からのメッセージ

私、一昨年１０月より、今日まで自宅療養の身です。今年の４月ころよりやっと外出してみようという気になってきました。起死回生というのは、このことでしょうか。

ウクライナの方々からのお便り読みました。私の祖父、叔父も広島で被爆しているので、少しは怖さも分かっているのですが、ほんとうに厳しいですね。どうぞスタッフの皆々様のご活躍をお祈りします。

（枚方市・Ｋさん）

コバレフスカヤさんや、「10年目のチェルノブイリ」によると、果たしてこの人々は救われるのかと思うほど、気の遠くなるような悲惨な状況ですが、にもかかわらず、けんめいに救援活動をしていらっしゃることに感謝いたします。

わずかですが、どうぞお役立てください。

（名古屋市・Ｉさん）

今も続く人々の苦しみがよーく伝わりました。まだ忘れないよという気持ちが、人々に伝わっているのが、よくわかります。

（長野市・Ｋさん）

ポレーシエNO.33、有り難く拝見しました。何の罪もない可愛い子どもたちの事を思うと、本当にお気の毒であり、心から憤りを感じます。真面目に考えれば、歴史的にも日本経済の繁栄が何時迄も続くとは考えられない現実であるのに、国民の側にも大いに責任があります。何処から歯止めをすれば良いのか、残念ながら解決方法が無いようで、誠に残念に思う今日この頃です。でも、皆さん方のご活躍のお陰で、支援させていただき感謝します。

小生1924年生まれ。陸軍士官学校で終戦を迎えました。再び戦争によって事態を解決してはならぬと心に誓っており、軍事費を増強するのなら、全額チェルノブイリ救援に廻したいと思います。非武装中立がだめなら、現状の自衛隊で十分と思っております。軍事費を支出すれば次々と口実を作り、雪ダルマ式に大きくなるのが歴史的事実です。目指す方向は、自衛隊から、陸海軍の昇格なのですから。

（名古屋市・Ｄさん）

「ＥＣＣ地球救済キャンペーン」から

私たちの救援活動に、１００万円贈呈されました！

６月30日、大阪のメルパルクホールにて、ＥＣＣ主催の「全日本青少年英語弁論大会」が開催され、その冒頭で、「ＥＣＣ地球救済キャンペーン」の寄付金贈呈式が行われました。

今年も「日本ユニセフ協会」「大阪大学微生物研究所」などとともに、私たち「チェルノブイリ救援・中部」に対しても、活動支援金として、100万円が贈られました。

チェルノブイリ原発事故から10年が過ぎ、今なお深刻な状況を訴える「現地からの報告」に、静かに耳を傾けてくださって会場の皆様を始め、ＥＣＣで活躍するすべての皆様に、心から感謝申し上げます。

現地に対する救援活動で、今、最も大切なことは「継続すること」です。でもそれは、多くのボランティア活動にとって、とても「困難なこと」のひとつでもあります。

日本中の皆様からの「暖かい支援」と、被災地の「子どもたちの笑顔」が、私たちの活動の言動力です。今年も、私たちの活動は【To be continued】です。

代表　神野 英樹

1996.6.30. 中日新聞

チェルノブイリ被災者に募金3万1324円寄託

長良養護ら学校児童

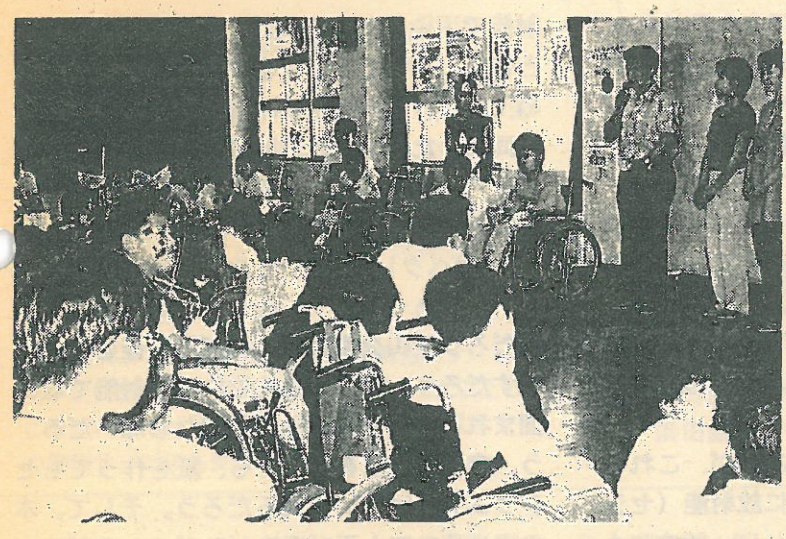
チェルノブイリ原発事故の放射能汚染で苦しんでいる人たちに役立ててもらおうと、岐阜市長良の県立長良養護学校（八十四人）の子供たちが二十九日、被災者の救援活動に取り組んでいる「チェルノブイリ救援・中部」のメンバーに、集めた募金を贈った。

被災者の苦しみを知った児童生徒会のメンバーらが、今月十五日に同校で開かれた「ふれあいの日」に、募金とチャリティーバザーを実施。三万千三百二十四円を集めた。

この日は地域の人たちとゲームなどを楽しむ「みんなの広場」が同校であり、チェルノブイリ救援・中部を代表して訪れた神野英樹代表（四四）ら三人に、閉会式で募金の贈呈が行われた。

児童生徒会長の横山裕君（高等部二年）が「事故から十年たっても病気の人が多く薬は少ししかないと聞きました。被災者の人たちが少しでも明るく生きられるよう募金を利用しください」と募金を手渡すと、神野代表は「皆さんにいただいたお金で、苦しんでいる多くの人に薬を渡すことができます。向こうの人たちも喜んでくれると思います」とお礼の言葉を述べた。

チェルノブイリ救援・中部では、放射能汚染を逃れて移住した人たちが住むウクライナの村の診療所に、受け取った募金で薬を送る

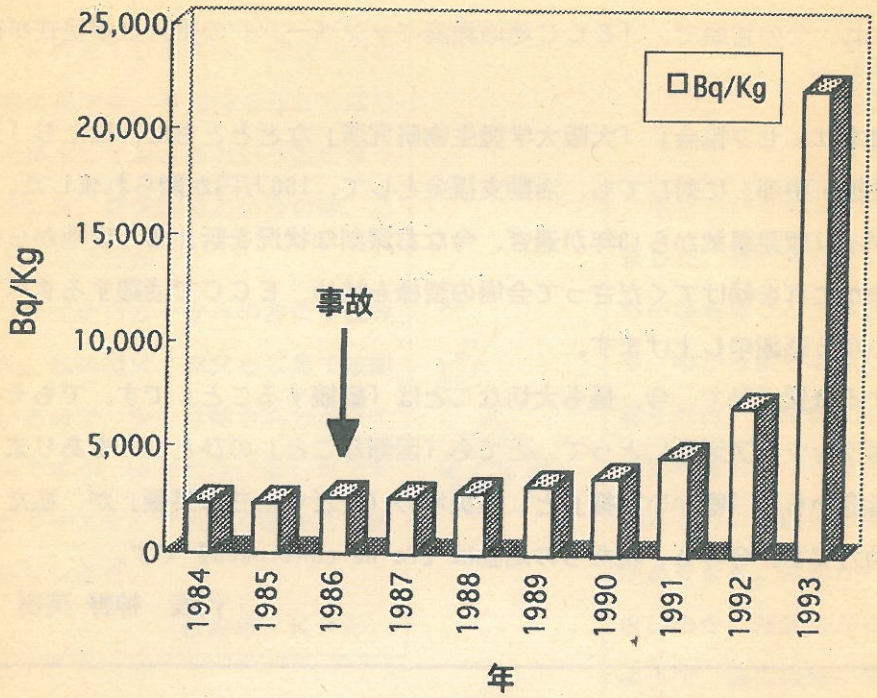


神野英樹代表のあいさつを聞く児童生徒たち＝岐阜市の長良養護学校で

連載　5

木や草の汚染はこれからも？

松材年輪中の放射能（ウクライナ、ジトーミル州）



4月のスタディー・ツアーでウクライナへ行った際、ジトーミル市の地域博物館で興味深い物を見つけた。ちょうどチェルノブイリ10周年の展示のために模様替えをしている最中だったが、快く見学させていただいた。事故当時使った測定器や消防士たちの着た防護服、写真等があったが、その中に現在の汚染を示す、いくつかの展示があった。その一つが、上に示した図である。写真がうまく撮れないので、お願いしたらあとでそのコピーをくれた。

ウクライナには松林が沢山あるが、これらの松材には最近になって急激に放射能（セシウム137）が増加しているらしい。論文にもそのように書いたものもある。上の図はそのことを示したデータである。なぜ今ごろになって増えるのか。

その理由は、10年前に事故直後の強烈な放射能で汚染した木の葉が、今になって腐葉土と化し、植物の根から吸収され易くなったためである。10年前の放射能は、今やっと土に同化した。土壌の汚染標本も展示されていたが、汚染は土壌1Kgあたり森の表面の枯れ葉などの部分が8300ベクレル，土壌表面が22153ベクレル、10センチ下が157900ベクレルであった。　これらの木は今後どうなるだろう。山火事が起これば放射能を撒き散らすだろう。切って家を作れば放射能で取り囲まれる暮らしをしなければならないだろう。家具や楽器を作っても、紙を作ってもセシウム137はついて回るだろう。そして、木の実や草の実も再び汚染がひどくなるだろう。それを食べる動物や家畜も・・・・・。これからも続く放射能のサイクルである。

（河田昌東）

チェルノブイリ救援・名古屋が活動再開します

梅雨も明け、猛暑の夏がやってきました。皆様にはいかがお過ごしでしょうか。
チェルノブイリ原発事故から10年が経ち、4月26日の記念行事も終わると、ともすればチェルノブイリは私達の脳裏からも記憶がうすれかねません。

しかし、放射能の影響は被災地のひとびとにとって10年前と変わることなく暗い影を落としています。

チェルノブイリ救援・中部の援助は政治と経済が混乱状態にあるウクライナの被災地にとって、かけがえのない存在となっています。今後も被災者の援助を継続すると同時に、世界の流れに逆行して相変らず原発推進が行われている日本の人々にも放射能の怖さを広く知っていただくために、足元の活動をより一層活発に推し進めなければならないと痛感しています。

この度、活動をいっそう活発化させるため久しくお休み状態だった「チェルノブイリ救援・名古屋」の活動を再開させ身近な人々との関係を緊密にした活動にしたいと考えています。様々な知恵を出し合いながら、顔の見える関係の中で、新たな活動を作りだしましょう。

当面の活動目標：

（1）ナロジチ病院に支援を！
チェルノブイリ原発から70Kmの「ナロジチ病院の給水・給湯設備」を完成させよう。汚染地域の人々にとって無くてはならない病院なのに、蛇口から水やお湯が出ない！　医師や看護婦さんが近くの井戸からバケツで汲んだ水で手を洗うなんて！信じがたいけれど事実です。完成には約400万円必要です。「チェルノブイリ救援名古屋」はこの支援活動を皆さんと共に展開したい！

（2）汚染地域の人々と文通交流をすすめよう！
移住したくても移住できない人々が、まだ沢山ナロジチやその他の放射能汚染地域に住んでいます。人々は病気や生活苦に加えて「自分達は世界から取り残されている」という孤立感にさいなまれています。こうした人々に手紙を出し、励まして心の支えになってあげましょう。汚染地域にすむ人々の生の声に耳を傾けましょう。

（3）チェルノブイリ関係情報・原発情報のサービス・出前報告会・講演会を行います。2人以上のご要望があればどこにでも出向きます。電話での情報サービスも受付けます。

呼びかけ人

神野英樹（救援・中部代表）
山盛三千枝　渡辺元恵　気駕まり
神野美知江　横尾正美　河田昌東
樋口則子　横地隆子　新谷泰子
浜田謙二

毎月1回：テイー・アンド・スタデイー・ミーテイング　（第２回）
ーーーどなたでも自由に参加出来ますーーー

時：1996年 8月 17 日 （土） 午前10 - 12 時
所：愛知県中小企業センター、７Ｆ10号室（名古屋駅前EL: 052-561-4121）

当面の連絡先：山盛三千枝（名古屋市緑区作の山町230、メゾン作の山207）
電話,FAX:052-892-9706（山盛）、電話:052-782-0222（河田）
一緒にやってくださる方、ボランテイア歓迎。お電話下さい。

事務局だより

チェル救の窓口業務をしていると、様々な出会いがある。先日も、谷汲村のOさんから久しぶりに電話があった。彼女は身体が不自由で寝たきりの生活をされている女性だ。「指におはしを結び付けて電話をしているんですよ。私は動けないから電話だけがたよりなんです。」と話され,時折事務所に「山盛さん、おげんきですか？」と電話を下さってからもう4年になる。私はその度に何か「懐かしさ」を感じ電話から、まだ行ったこともない谷汲村の清しい風が吹いてくるように思えて、とても気分が良くなる。

チェル救は、このOさんのような方々の継続した支援によって支えられている。私は、現地とこのような方々の思いをつなげなければと思う。ともすれば「自分達」がこの救援活動の中心にいるかのような錯覚に陥る。自戒しなければならない。

チェル救事務所・この夏も暑い。

残暑お見舞い申し上げます。　　山盛 三千枝

お・知・ら・せ

◇コバレフスカヤさんの講演ビデオとテープ貸出します。1回500円(送料別)

◆救援・中部のTシャツ　一枚1.500円。ステッカー　一枚 200円。好評です。

◇救援・中部オリジナルテレフォンカード　　一枚 1.000円/50度数

◆『絵はがき集』 1 セット5枚 300円（子どもたちからとどいた手紙や絵）

◇『たった一回の原発事故で』一冊 515円 + 送料 51円 （救援・中部編　地湧社）

◆『とどけウクライナへ ～ 私たちの救援日記』 1.648円（坂東弘美著　八月書館）

◇ネチポレンコさんと小児科医・ライサさんの来日講演録 1部350円(専門家の解説付)

《救援・中部 事務局 ☎FAX052-836-1073 までお申し込み下さい！》

あなたも維持会員になって下さい

チェルノブイリ救援の活動を続ける為に、事務局の維持費用が必要です。
あなたも事務局維持会員になって下さい。

☆維持会員会費　10.000 / 年 （または、1.000円/月）

（※通信欄に "維持会員費" と記入して、救援・中部の口座にご送金を。）

《編集後記》やっと終わった！地ビールが飲みたい（まや）エアコンの効いた上宮寺での編集作業は快適だけど、これも原発の電気だろうな。思い切ってスイッチを切ろう（幸）日本一暑い岐阜の夏。長良川では子どもたちが楽しそうに泳いでる。遊びにきてね♡（み）アトランタ 負けずに燃える 岐阜メンバー（）